

# Care & Communication

ケア&コミュニケーション



## DENTAL REPORT

地域の口腔衛生環境の  
向上を目指し、  
人材育成にも力を入れる

医療法人 Smile Products  
小笠原歯科・矯正歯科 副院長  
小笠原 正卓 先生

P01-08



## INSIDE REPORT

実践的な治療に徹し  
患者の歯を生涯にわたり  
守り続ける

矯正治療 症例紹介  
ふなつデンタルクリニック 院長  
船津 雅彦 先生

P09-16



## DOCTOR'S TALK

患者増に対応するために増築。  
メンテナンスを重視する  
診療方針で患者の歯を守る

はせがわ歯科医院 院長  
長谷川 幸生 先生

P17-22



## THE FRONT LINE

歯内療法専門の歯科医院を  
一般歯科を中心とする  
本院と協力して開業

レーザー療法実践応用講座

医療法人社団 BTDC  
本郷龍田歯科医院 院長  
小林 寛 先生

P23-26



# 地域の口腔衛生環境の 向上を目指し、人材育成にも 力を入れる

秋田県大館市にある「小笠原歯科・矯正歯科」は、  
2019年に移転新築し、規模を拡大。患者の歯を守りながら、  
地域の歯科医療と人材育成にも力を入れている。

医療法人 Smile Products 小笠原歯科・矯正歯科  
副院長 小笠原 正卓 先生



## 患者増に対応するため ユニットを7台に増設

「小笠原歯科・矯正歯科」は、JR大館駅から車で5分ほどの住宅地にある。国道に面しているのは、シンプルな門柱の看板と、一見、横長の塀にも見える外観。駐車場や玄関は、国道から右折、または左折して細い道に入らないと、見えてこない。

一軒家タイプの歯科医院は、建物をわかりやすく、目立つようにするのが当たり前という常識を覆し、国道に背面を見せているところが、ユニークだ。

小笠原正卓副院長は、その理由をこう話す。

「国道側を正面にしなかったのは、建築デザイナーさんのアイデアです。塀のような背面を国道側にすることで、通る人たちは『なんの建物だろう』と逆に興味を持ちます。そのアピール力を狙ったそうです。患者さんからは、『何かの寮かと思った』『カフェだと思った』などと言われています(笑)」

小笠原歯科・矯正歯科の開業は、1975年のこと。正卓副院長の父である小笠原正四院長が、現在地から70mほど奥まった場所に歯科医院を設けた。2007年から正卓副院長が父と一緒に働くようになったことを機に、2008年にリニューアル。2019年に現在地を新たに取得し、建物も新築した。

「移転したのは、患者さんが増えたことで手狭になったことが一番の理由です。移転後は、ユニットを3台から7台に増やしました」

国道沿いになったことで、よりアクセスがよくなったことも患者には評判がいい。とはいえ、土地が見つかるまでは、時間がかかったという。

「すでに建物が建っている土地が多く、なかなか広い敷地を確保するのが難しかったのです。この場所も以前は倉庫が建っていました。銀行の担当者さんが熱心に探してくださって、地主さんや倉庫の所有者さんとの交渉でも力を貸してくれたことで、移転が可能になりました」

移転新築を主導したのは、正卓副院長。正四院長は、全面的に任せてくれたようだ。

「私が父の歯科医院で働くようになってから、徐々に親子継承は進んでいましたが、移転を機に、ほぼ院内のことは私が担当するようになりました。今の父は、古くから通院し、『院長でなければ』と希望する患者さんの治療にあたっています」

## 患者とスタッフの居心地と 働きやすさを重視した院内

新しくなった小笠原歯科・矯正歯科のユニークな設計は、建物内にも見られる。特徴的なのは、受付と待合室の位置関係だ。

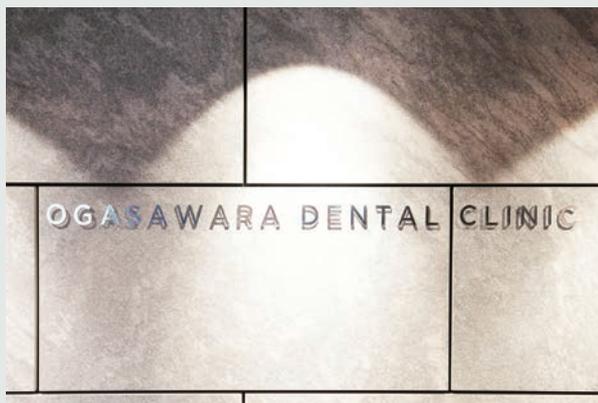
玄関を入り、右手の正面に受付がある。待合室があるのは、左側の奥まった場所。待合室にいる患者は、玄関を出入りする人や受付で会計をする人の目線を気にせず過ごすことができる。



玄関から入った奥の待合コーナー



受付から見えないもう一つの待合コーナー



受付の壁にライトアップされた歯科医院名

「患者さんには、少し歩数が増える手間をかけていますが、待合室を半個室にしたことで、落ち着いて治療をお待ちいただけます。歯科医院にいらっしゃる患者さんは、どんなに慣れていても緊張するものです。建物に入り、短時間でも、スタッフの目に触れにくい場所で、一息入れていただける待合室になったと思います」

受付を待合室と分離したことにもメリットがあった。患者は、支払いをしたり、相談したりする様子を他の患者に見られずに済む。受付担当のスタッフも、待合室に座る患者の視線を気にせず、仕事に集中できる。

「意外に見落としがちなのですが、受付のスタッフも診療時間中、患者さんの視線を感じながら仕事をするのは、プレッシャーになるんですね。近くにいながら、患者さんも受付スタッフも気兼ねせずに済む距離を保てるようになっ

たのは、よかったと思っています」

診療室のスペースに入ると、目につくのが、内装のアクセントになっている白木風の建材だ。林業で采ってきた大館市らしさが漂い、全体的にはモダンながら、和風の雰囲気も感じる。

ユニットが置かれているのは、すべて個室。受付に近い4台のユニットは治療用、奥に向かったの3台はメンテナンス用だ。個室と個室を仕切る壁は、上部が空いており、隣の部屋の様子がわかる構造になっている。

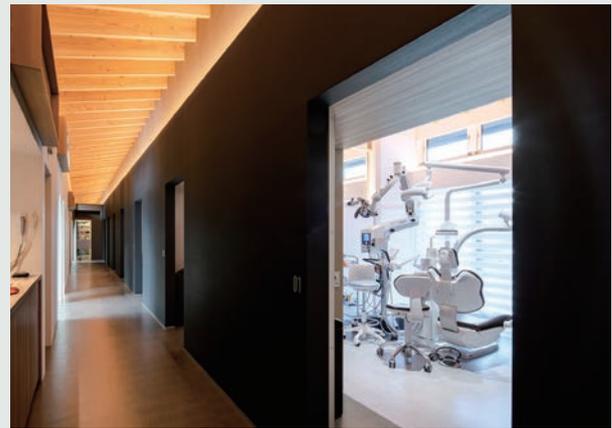
「私が建物の設計でこだわったのは、診療室を個室にすることでした。患者さんのプライバシーを守るために、必要だと思ったからです。もう一つは、スムーズな動線の確保です。横長の敷地を活かして、通路の右側は診療室、左側はレントゲン室や消毒滅菌室というようにわけました」



玄関の斜め正面にある受付



中庭から玄関を見る



受付から続く廊下の右側に診療の個室が並ぶ

移転後は、ユニット5台から始めたが、すぐに1台を増設。さらにその翌年にはもう1台と、短い間に7台を設置することになった。

現在、1日70~80人の患者が来院し、約半数がメンテナンスだ。すべてのユニットがフル稼働しているため、理想を言えば、増築するなどして、もう少しユニットが欲しいところ。しかし、正卓副院長は、マンパワーを増やす難しさから、今のユニット数が最適と考えている。

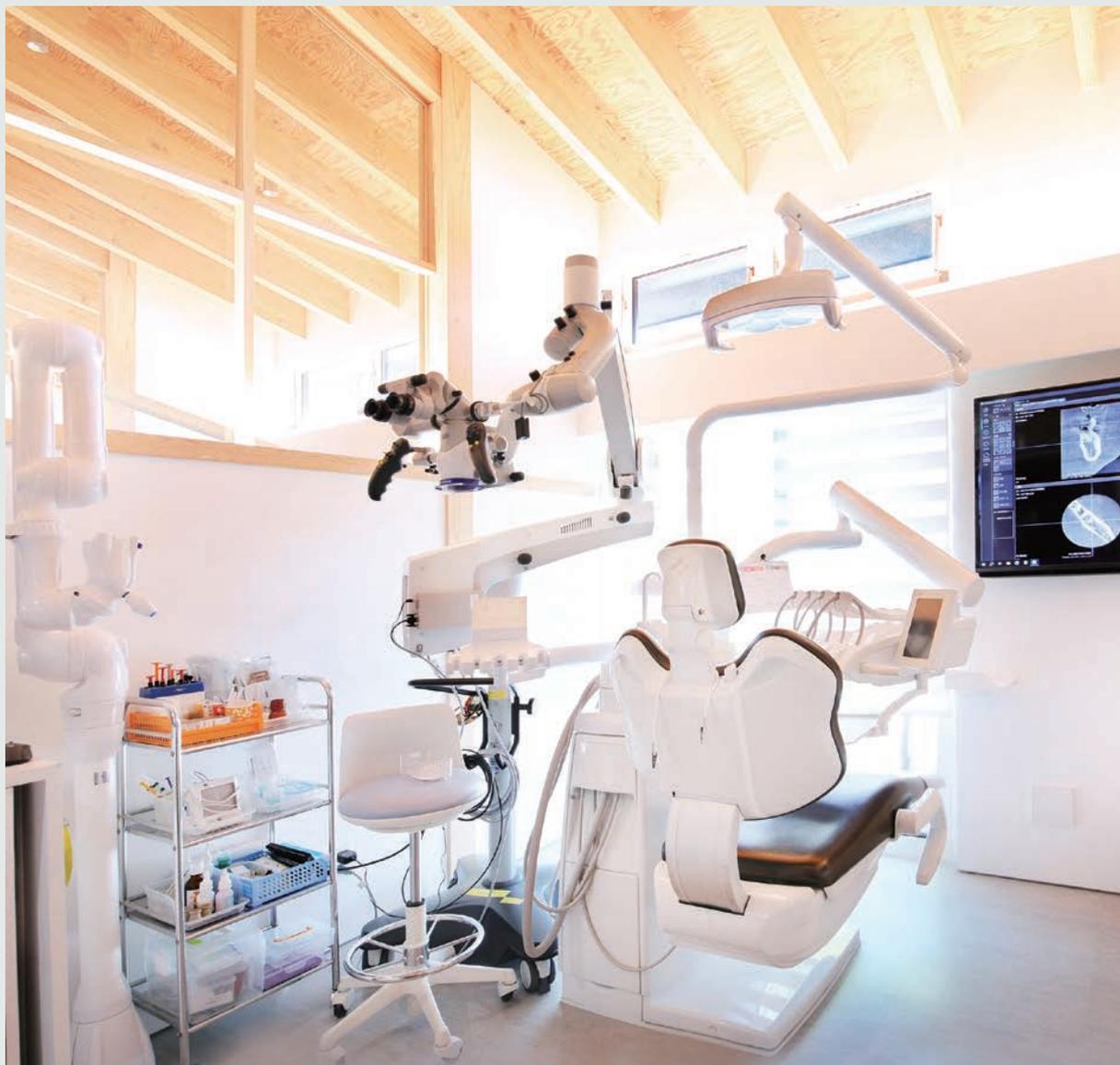
## 歯を守る治療を大切に 歯内療法の研究にも励む

移転新築を機に変わったのは、場所や建物だけではな

い。じつは、2020年に歯科医院名も変わった。以前は「小笠原歯科医院」だったが、「矯正歯科」が加わった。

小笠原歯科・矯正歯科がある地域は、長年、矯正の専門医が不在だった。秋田県の場合、秋田大学には歯学部がなく、歯科大学もない。本格的な矯正が必要になった患者のなかには車で40~50分かけて、青森県の弘前市まで行く人もいたという。

「そんな環境を改善したいと思い、隣町の出身で東京歯科大学に勤めている矯正専門の先生にずっとラブコールを送っていました。移転新築した翌年に、ようやく月1回、診療をお願いできることになったのです。大学病院の専門医による矯正治療が受けられる歯科医院が、この地域で初めてでしたし、患者さんに広く知ってもらいたいと、医院名を変えることにしました」



正卓副院長が主に治療で使用する個室

その後、近所に新しく矯正専門の歯科医院ができたことで、より環境は改善した。現在は、その歯科医院とも連携し、矯正治療を進めることも増えている。

正四院長が土台を築いた小笠原歯科医院に、正卓副院長が加わったことによる変化は、診療の幅が広がったことだ。正卓副院長は、大学院で補綴を専門に学んできた。口腔外科での経験も積んできている。

さらに2008年からは、東京の石井歯科医院の石井宏院長のもとで、歯内療法も学び続けている。

「補綴治療に取り組んでいると、どうしてもエンドに苦しめられるんです。もっと勉強をしなければ、といろいろな勉強会に参加していたとき、石井先生を知りました。ペンシルバニア大学で学ばれてきた技術、知識は驚くばかりで、石井先生が研修会を作られてすぐに参加することにしたのです。アメリカで学べるコースに参加させてもらえ

たことも、今、非常に役立っています」

大学の歯学部時代から勉強熱心な正卓副院長だが、石井先生が指導する「PESCCJ」に参加することで、エビデンスの大切さを改めて実感したという。

「私が専攻した補綴でも、まだ歯科医師の職人技に頼る部分がありました。でも、新しい技術や機械が次々と登場する時代には、それでは対応できません。業界の評価が高いから、と受け入れるのではなく、自分でエビデンスを集め、考え、勉強をした上で患者さんに提供するべきである、ということを学びました」

そう話す正卓副院長は現在、マイクロスコープ、Nd:YAGレーザー、セレック、CBCTなどの機器を駆使して、日々の診療にあたっている。

「マイクロスコープは、歯内療法のため、というより、歯学部時代にいた頃から拡大視野の治療に興味があったことが



治療用のユニット



メンテナンス用のユニット

ら導入しました。Nd:YAGレーザーは、歯周病に使うことが多いです」

インプラントに関しては、小笠原歯科・矯正歯科では行っていない。必要がある場合は、近隣の専門医に依頼している。

「自分の歯を残したいと希望する患者さんは多いです、残せる根拠があるのであれば、私は、そこにこだわりたい。そのためにも、エンドの知識と技術をさらに高めたいと思っています」

## 地域の口腔衛生環境と 人材育成に力を入れる

大館北秋田歯科医師会の理事である正卓副院長は、

地域保健、学校歯科衛生担当として、子どもの口腔衛生の向上にも力を入れている。

保育園1か所、小学校4か所、高校1か所を学校歯科医として回り、年1回の検診と歯磨き指導を行ったり、それぞれのデータを検証してのアドバイスを行っている。

また、未就学児の検診・フッ素塗布や幼稚園・小中学校のフッ素加工物洗口など、幼い頃から中学卒業まで途切れることなく、虫歯予防のプログラムを進めることも、大館市に積極的に提案してきた。

「その成果が表れ、最近では虫歯のデータがかなり改善してきました。なかには、全生徒の虫歯がゼロの学校もあります。全国を都道府県単位で見ると、新潟県が突出して子どもの虫歯が少ないんですが、大館市もそのデータに近づきつつあります」

そう喜ぶ一方で、大館市は大きな課題も抱えている。



横に長い平屋の建物。手前には広い駐車場がある



国道からは歯科医院と見えない外観



玄関の両脇にあるゆるやかなスロープ



診療室から緑が目に入る配置に

## 小笠原歯科・矯正歯科 院内MAP



歯科に関わる人材の育成だ。

秋田県は人口減少率と高齢化の割合が全国でも1位。歯科医師の高齢化により、閉院する歯科医院も増えている。いかに地域の口腔衛生環境を守るかが、正卓副院長の世代には課せられている。「解決のために取り組んでいるプログラムの一つは、子どもたちに歯科に関わる仕事を知ってもらう事業です。教育委員会と協力し、歯科医院でお仕事体験をしてもらったりしています。もう一つは、学費の支援です。歯科衛生士や歯科技工士の専門学校、短大などに進学を希望する学生に奨学金を出すようにしています。歯科医

院の場合、奨学金を出すのは難しい面もあるのですが、税理士さんと相談しながら、なんとかクリアしました。それが実を結び、今年、ようやく1人が歯科衛生士を目指して短大に通っています」

人材育成を重視する姿勢は、働くスタッフにも向けられている。現在、小笠原歯科・矯正歯科で働いているスタッフは、常勤の勤務医が1名、歯科衛生士が5名、歯科助手が8名、歯科技工士が3名、受付兼歯科助手が3名だ。受付兼歯科助手は、トリートメントコーディネーターの資格も持っている。

「外部から講師を招いて院内セミナーを開いたり、歯科



明るいカウンセリングルーム



歯科用CT



歯科技工室

の知識と技術を高めるだけでなく、産休・育休制度を整備して、働きやすい環境を整えています。うちのスタッフは、意欲的で優秀な人材ばかりなので、本当に毎日、助けられています」

じつは最近、うれしいことがあった。患者として通っていた学生が、スタッフに憧れ、歯科衛生士の専門学校に進学したのだ。それも卒業後は、小笠原歯科・矯正歯科で働きたいと言っているそうだ。

「私はもちろんですが、なによりもスタッフたちが、とても喜んでいました」

正卓副院長は、スタッフにまとまりがあるのは、トリートメントコーディネーターの資格を持ち、院内のマネージメントを担当している奥様の由紀子さんの存在も大

きいと話す。

「妻は、私や院長ではカバーしきれない院内のマネージメントを一手に引き受けてくれています。上司だったり、ママ友仲間だったり、いろいろな立場からきめ細かく接しているの、スタッフからの信頼は厚いです。クリニックの経営に大きく貢献してくれている妻には、心から感謝しています」

小笠原歯科・矯正歯科は、長年、地域密着型の歯科医院として、患者に信頼されてきた。正卓副院長は、これから先も、その絆を強め、口腔衛生に寄与するだけでなく、人材育成の面からも地域医療に貢献できる歯科医院でありたい、と語ってくれた。

## PROFILE

### 小笠原 正卓 先生

●2000年 奥羽大学歯学部卒業 ●2004年 新潟大学大学院歯学部研究科卒業 歯学博士号取得 ●2004年 新潟大学歯学部・歯医学総合病院勤務 ●2007年 小笠原歯科医院に副院長として勤務 ●2008年 小笠原歯科医院をリニューアル ●2019年 現在地に移転新築。医療法人 Smile Products 小笠原歯科医院設立 ●2020年 医療法人 Smile Products 小笠原歯科・矯正歯科(定款変更) ●日本歯内療法学会 ●AAE(アメリカ歯内療法学会) ●日本補綴歯科学会

### 小笠原 正四 先生

●1973年 岩手医科大学歯学部卒業 ●1975年 小笠原歯科医院開業 ●2019年 医療法人 Smile Products 小笠原歯科医院設立 ●2020年 医療法人 Smile Products 小笠原歯科・矯正歯科(定款変更) ●日本歯内療法学会

医療法人 Smile Products  
小笠原歯科・矯正歯科

秋田県大館市古川町30-1  
TEL:0186-43-3161 HP:https://ogadental.com/



# 実践的な治療に徹し 患者の歯を生涯にわたり 守り続ける

熊本市にある「ふなつデンタルクリニック」は、  
1998年開業の地域密着型歯科医院。日々、研鑽を積み重ね、  
患者に最適な治療に徹してきた歩みを伺った。



ふなつデンタルクリニック 院長 船津 雅彦 先生

## テナントの歯科医院を 引き継ぐ形で開業

「ふなつデンタルクリニック」は熊本市の西部、JR西熊本駅から車で3分ほどの距離にある地域密着型の歯科医院だ。

開業は、1998年。歯科医師を目指したときから開業を考えていた船津雅彦院長は、鹿児島大学歯学部を卒業後、3年の勤務医経験を経て、自身の歯科医院を持った。「当時でも、開業は早いほうでした。治療に自信がありましたし、早く患者さんの役に立ちたいという一心だったのです。振り返れば、甘かったですね。開業すれば、虫歯の患者さんが来院する時代だったので成り立ちましたが、今だったら難しかったかもしれません」

船津院長の開業は、引退する歯科医師から歯科医院を引き継ぐ形でのスタートだった。

「知り合いの歯科衛生士さんが紹介してくれたテナント型の歯科医院でした。高齢の患者さんが多かったですし、私は入れ歯の治療が好きだったので、通院していた患者さんがそのまま通ってくれるのではないかと、という狙いがありました。その患者さんたちをケアしながら、訪問診療でもできれば、と考えたのです」

スタッフは、歯科衛生士が1名、歯科助手が2名。1日の患者数も20人ほど。経営的には成り立っていたが、船津院長は、開業医として患者と向き合う難しさを経験することになった。

「患者さんの歯を守りたいと思うと、自費になる治療も出てきます。でも、患者さんは、保険診療の範囲内でやって欲しいという希望が強い。私も若かったですから、なぜその自費診療が必要なのか、なかなか患者さんを説得することができません。お年寄りが29歳の若造の意見を聞いてくれるかといえば、やはり受け入れてはくれないんですね。あの頃は、歯科医師として経験が浅いことを見透かされていた、というのが、本当のところだったんじゃないでしょうか。自分自身がもっと成長しなければいけない、と感じる日々でした」

## 移転新築後の苦境を経験し 自費診療中心に

ふなつデンタルクリニックが1度目の移転をすることになったのは、思いがけない理由からだった。借りていた駐車場が道路の拡張工事により、使えなくなってしまったのだ。新たな場所に移転せざるを得なかった船津院長は、「アクアドームくまもと」と呼ばれる熊本市総合屋内プールのそばに土地を見つけた。

移転したのは、2003年10月。一軒家タイプの歯科医院となり、以前より広く、設備も充実したものだ。「ところが、4カ月ほどで経営危機に陥りました。一番の理由は、人通りが少なく、住宅が近隣にポツンポツンとあるような場所だったことです。医療機器を揃えるのが好きだったこともあり、2軒目の歯科医院では、CTやマ



広々とした待合室。窓際にはカウンターの席もある



遊具も豊富にあるキッズルーム



漫画などが揃った待合室脇の書庫コーナー



受付・待合室の右横から診療室に続く

イクロスコープなど、最新の設備を整えたことも、経営を圧迫することになりました」

その苦境を乗り越えることができたのは、診療方針の転換だった。自費診療を中心にするにより、収支が改善していった。

2軒目が自費中心の診療になったのは、経営が先にありき、ではなく、船津院長が考える最良の治療を追求した結果だった。

「患者さんにとって、保険の範囲内での治療が必ずしもベストチョイスなのだろうか」と考えていた船津院長は、保険診療の枠にとらわれず、顧客、である患者に望むサービスを選んでもらうインフォームド・セレクト・コンセント、つまり説明・選択・同意を実践した。

保険診療にはルールがあり、おのずと治療結果にも、

その限界が影響してしまう。患者の将来を考えたベストの治療をするには、保険診療の枠を超えることが、ときには必要になる。

「いくつかの治療プランを立て、患者さんの治療目的や価値観、ライフスタイル、年齢、性格によって選択していただく。その上で、私が積み重ねてきた治療技術を駆使し、機能的で美しく、患者さん本来の口元を再現することが私の役目だと思ったのです」

自費診療が中心になったふなつデンタルクリニックで、とくに患者から求められたのは、矯正治療だった。船津院長は、1本1本の歯が存在する意味を大切にする。セオリーに沿って歯を抜いたり、きれいに並べるのではなく、患者それぞれで違う顎や歯の正しい位置を調べ、なぜ、その歯が好ましくない位置にあるのかを検査データ



ナンバリングされた診療室。向かいには、準備コーナー、消毒滅菌室、レントゲン室などが配置されている



半個室タイプの診療室。ユニットまわりのスペースも広く取っている

から熟考していく。そして、正しい顎の位置に基づき、歯を誘導していく。必要があれば、生活指導も行った。

また、成長期の子どもの場合は、将来の口腔を見越し、数種類の器具を状態に合わせて組み合わせる矯正を行うこともあった。

そうしたオーダーメイドの治療に必要な検査データを取得するにあたり、船津院長は労を惜しまなかった。よいと思えば、積極的に診療に取り入れた。

その一つが、顎運動測定装置「K7」という機器だ。正常な位置にある顎であれば、支える筋肉が緊張することはない。しかし、位置がずれていると筋肉は緊張する。この仕組みを利用し、筋肉に弱電流を流し、緊張の度合いを計測するという機器である。「歯がなぜ歪んでいるのか、原因を早期に見つけ、排除

することで、歯は正しい位置に導かれていきます。その基準になるのが、顎の正しい位置です。矯正は歯科医師が作るものではなく、導かれるものという考えを理解することが大切だと思います」

## 将来の親子継承を見据え 2度目の移転新築を決意

2023年5月、ふなつデンタルクリニックは、600mほど離れた場所に移転し、規模を拡大して建物を新築した。広々とした敷地に建つベージュとグレーの外観は、遠くからもよく目立つ。熊本港につながる幹線道路沿いで、目の前には小学校があるという好立地だ。



各ユニットにマイクロスコープも備える



マイクロスコープ



「今回の移転は、将来を見据えたことが一番の理由です。自費診療を中心に診療してきましたが、これからの時代を考えると保険診療の患者さんも受け入れる間口の広さが必要と考えたのです」

じつは、船津院長の2人の息子さんが、歯科大学に在学中だ。長男は大学6年生、次男は大学5年生である。研修期間を終えたあとは、ふなつデンタルクリニックで働くことが決まっている。将来、3人の歯科医師が働ける規模が必要と考え、移転新築を決意したのだという。

「診療室のユニットやレントゲン室などの配置は、以前の歯科医院とほぼ同じですが、ユニットは7台になりました。治療に関する部分は私が主導しましたが、それ以外の設計は息子たちにかなり任せました」

新しくなったふなつデンタルクリニックは、待合室が

広く、窓側にカウンター席が設けられたり、漫画や絵本がずらりと並ぶ書庫コーナーがあったりと、居心地のよい空間になっている。診療室のユニットはパーティションが高い半個室風の造りで、スタッフの働きやすさも考えたオープンな雰囲気だ。

「うちのスタッフは、優秀な人ばかりです。とくにベテランの歯科衛生士は患者さんには優しく、仕事には厳しく、真摯に向き合う頼れる存在です。新しい建物では、彼女たちが働きやすい環境も整えました」

移転新築後は、患者層が広がり、以前の患者数は月400人だったが、現在は600人ほどに増えている。年齢はほぼまんべんなく来院しているが、子どもと男性が増えている印象があるという。船津院長は、いずれ子どもたちと働くようになったときには、一般歯科は息子たちに任せ、自身は専門治療が必要な患者を担当する形も



レントゲン室



消毒滅菌室



歯をイメージしたオブジェ風の看板



シンボルマークが道路からも目立つ

考えているという。

その布石の一つとして、2020年からは、船津院長が臨床を通じて得てきた知識と技術を伝える「頑張れば誰でも出来る咬合療法 ふなつ会」という勉強会も始めた。

「医学雑誌に書いていた連載記事がきっかけで、私を募ってくれる先生が集まってくれています。私の教え方は、徹底した実践型です。実際の症例、それも現在進行形の症例を課題にして、どのように治療を進めるのが適切なのか、なぜ他の治療法では望ましい結果が出ないのかを教えてください」

歯科治療に関して、自分や家族がされたくないことは、患者にはしない、という信念を船津院長は一貫して

持ち続けてきた。これからも常識にとらわれず、自分だからこそできる治療に徹していく。それが、ふなつデンタルクリニックの伝統になっていくのだろう。



船津雅彦院長と奥様、スタッフのみなさん

## PROFILE

### 船津 雅彦 先生

- 1994年 鹿児島大学歯学部卒業
- 1998年 熊本市南区近見にふなつデンタルクリニック開業
- 2003年 熊本市南区八分子町に移転新築
- 2023年 現在地に移転新築
- 「頑張れば誰でも出来る咬合療法 ふなつ会」主宰
- 国際顎頭蓋機能学会
- 日本臨床歯周病学会
- 日本歯周病学会
- 日本歯内療法学会
- 日本顕微鏡歯科学会

ふなつデンタルクリニック

熊本県熊本市南区荒尾1丁目15-22  
TEL:096-357-3717 HP:https://www.272dental.com/

# 顎運動測定装置「K7」と 「MEAW」を用いた矯正治療

ふなつデンタルクリニックでは、矯正治療に3次元的な顎の動きや位置、筋肉の働きを筋電図で調べることができる「K7エバリュエーションシステム」と「MEAW(マルチループワイヤー)」を用いている。その症例を紹介していただいた。



ふなつデンタルクリニック 院長 船津 雅彦 先生

K7エバリュエーションシステム(以下、K7)とMEAWを臨床に応用した咬合治療(矯正、咬合再構成)が、生体に影響を与えることを示唆するものであると、自らの臨床のなかではかなりの確率でそのように思えるようになりました。もちろん、すべてのケースで咬合がよくなるイコール不定愁訴がなくなるというわけではありません。私の身近にいる人たちの目の前で起こる事実として、自分たちもそのようになりたいと思わせるには、十分過ぎる影響があるようです。

咬合治療とは長い間、生活を共にしてきた既存の咬頭嵌合位から、K7の客観的データが示す本来のあるべき生理学的下顎位へ変更することです。歯科の仕事に就く関係者にでさえ治療を受けたいと思わせる衝撃的・感動的な結果があるのです。

私の考える咬合治療は、どのような不正咬合に対しても、治療に用いる方法はほぼ同じで、K7とMEAWで行う、いたってシンプルな方法であります。昨今の矯正歯科界を席卷しているインビザラインのような患者さんに見栄えがよく、評判のよいものではないかもしれませんが、舌側矯正や目立たない矯正を求める声は年々高まっているのも事実です。

ただ、私が自分の矯正治療に何を使用して、どのような考えで治療を進めるかといえば、現在やっている方法が最も体に優しく、治療効果の高いものであると信じていますので、今から矯正治療を習得するとしても同じ方法で修練すると思います。

理由は、治療において下顎位を生理的な方向に導くと考えている3つの咬合的要素、①上顎歯列弓の形態、②咬合高径、③咬合平面の傾き、を改善できる唯一の方法で、治療中から顔貌・上部頸椎、気道、舌骨の位置などに変化が表れ、体全体が方向軸として治癒に向かうと考えているからです。実際に、それぞれが相応して顎位、姿勢、顔貌が良好に変化していくことが臨床的に数多く確認できたので、私の近い人に対して行った治療の参考症例を通じて確認してもらいたいと思います。



当院の看板歯科衛生士のYさん(右)とKさん(左)。Yさんの症例を紹介したが、Kさんも同様の矯正を経験。写真は治療終了の翌日に撮影



歯科用下顎運動測定器  
K7 エバリュエーションシステム  
●医療機器承認番号21700BZY00195000

## [症例]

患者:当院の歯科衛生士Yさん 主訴:Ⅱ級咬合を治したい。歯が出ているので口が閉じにくい。

本人はまっすぐ向いているつもりで初診時の顔貌からうかがえることは、頭部と体軸のずれが大きい。口唇を閉じているが、上唇唇がめくれ、奥出っ歯感があり、口唇間より右上一番が出ている。いわゆるⅡ級咬合の顔貌になっている。顎関節の違和感、偏頭痛、肩こりの不定愁訴もあった。( 図1 ~ 図4、 図5 の治療前)

治療に関しては、下顎の機能運動に対し、K7で行う検証を中心に説明する。既存の咬頭嵌合位と生理学的な安静位から最小限の力で、上顎に対して下顎を閉口して開口する軌跡を下顎前歯に附着させた磁石でモニタリングするというものである。この症例では、初診では側面からサジタル時に、生理学的下顎安静位(マイオモニター使用時)の位置は①で表されている。( 図6、 図12 )このタイプのⅡ級咬合は、デュアルバイトを取ることもよくあるが、この症例では機能的な上顎前突ではないと考えられる。咬合高径は低いが、下顎の前後的な位置は正しく、上顎に対して下顎が後方の位置にあるわけではないということを示唆しているからだ。そうすると、形態的なものを重視すると、治療法として下顎を動かさないために咬合平面を平坦に、咬合高径を低くしないように、という方向性で治療することになった。

私の経験上、Ⅱ級といえぱ下顎後退位が頭にあったが、この症例はそうではなかったので、まず下顎の前後的な位置を変えずに咬合高径を拳上し、かつ上顎歯列弓の形態を改善。上下顎の被蓋関係を適切にするために、生理学的な下顎径を想定し、生理学的な咬合高径の拳上の方法としては、歯軸を正直させること、まず小臼歯をⅠ級咬合で噛ませ、MEAWのメカニズムを利用して、上顎のやや急峻な咬合平面を平坦化することで、下顎を後方へ偏位させないように被蓋関係を改善させた。( 図7 ~ 図11 )

### 治療前



図1 Yさん顔貌正面、側貌(術前)



図2 口腔内正面(術前)



図3 口腔内左右側面(術前)



図4 口腔内上下咬合面(術前)



図5 術前のセファロ

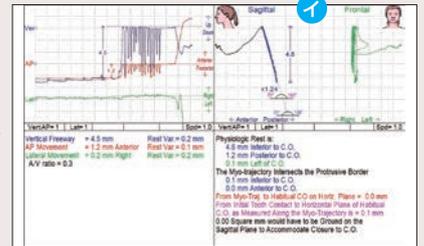


図6 K7術前データ(筋電図)

### 治療後



図7 Yさん顔貌正面、側貌(術後)



図8 口腔内正面(術後)



図9 口腔内左右側面(術後)



図10 口腔内上下咬合面(術後)



図11 術後のセファロ

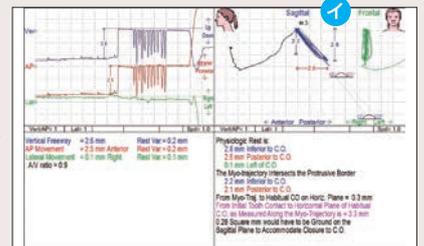


図12 K7術後データ(筋電図)



# 患者増に対応するために増築。 メンテナンスを重視する 診療方針で 患者の歯を守る

「C&C」47号にご登場いただいた静岡県富士市にある「はせがわ歯科医院」が、2024年6月に増築した。取材時から6年を経た現在の様子とこれからを伺った。



はせがわ歯科医院 院長 長谷川 幸生 先生

## 歯科医院の成長を考え 増築に踏み切る

「はせがわ歯科医院」に「C&C」47号の取材に伺ったのは2018年8月。開業から1年7カ月が経った頃だった。

長谷川幸生院長の専門は、口腔外科。横浜市立大学附属市民総合医療センター歯科・口腔外科など、総合病院の歯科・口腔外科や大型歯科医院に勤務したのち、故郷の富士市に開業した。

「同世代の開業医より遅いスタートなのだから、誰よりも勉強しなければ」という一心で、スタディグループの東京SJCDのセミナーに積極的に参加し、全顎治療を身につけた。また、多くの勉強会や学会を通じて、予防歯科の重要性も学んだ。それらの経験を経て、自身の歯科医院では予防を中心とする診療方針を徹底することにした。

「地域の人たちの健康を守るために存在する歯科医院でありたい。私の歯科医院をきっかけに、歯だけでなく、全身の健康に関心を持ってもらいたい」

前回の取材で、長谷川院長は、そう話してくれた。それから6年経ち、はせがわ歯科医院は地域になくはならない存在として、多くの患者から頼りにされている。

今回、伺って驚いたのは、外観も内装もほぼ変わることなく、美しく整えられていることだ。患者が増えているにも

かわらず、今も変わることなく初心が貫かれ、日々の整理整頓や掃除も行き届いていると一目でわかる。

「6年前に取材に来ていただいたときから、一番、変わったのは、スタッフが増えたことです。以前は、歯科衛生士が4名でした。今は8名で、歯科助手を含めると13名います。開業したばかりの頃は、私自身の成長が課題でしたが、歯科医院全体を成長させなければならない時期に入ってきました。そこで、より患者さんのニーズに対応しながら、働きやすい環境を作ろうと考えたのです」

## 機能と美しさを兼ね備え アイデアあふれる増築部分

2024年6月の増築では、建物の背面にあった駐車場の敷地を利用した。駐車できる車の台数が減った分は、近くの駐車場を借りてカバーした。

ユニットは2台増えて、6台に。増築した面積を考えれば、ユニットをもっと増やすことも可能だったが、長谷川院長はスタッフの労働環境の改善を重視した。

広々としたスタッフルーム兼ミーティングルームにはキッチンが備えられ、奥にはロッカールームもある。鍵付きの個人ロッカーが備えられ、複数人が同時に着替えをしてもゆとりのある広さだ。



広々としたソファや大きな窓がある明るい待合室



受付カウンターの左右にある通路が増築エリアに続く

院長室と倉庫に加え、壁一面を使い、カルテ用の保管キャビネットも作った。

「増築計画は2023年春から始まりました。開業した頃は、治療の患者さんが多かったのですが、治療を終えて予防に移行する患者さんが増えていきました。それに伴い、スタッフも増やしたのですが、治療用に2台、メンテナンス用2台では対応しきれなくなり、メンテナンス用のユニットを増築しようと決めたのです」

増築部分は診療を続けながら建て、ゴールデンウィークの休診日を使って一気に既存の建物とつなげた。

増築の場合、既存の建物の壁をどれくらい壊すかがコストにも影響してくる。はせがわ歯科医院の場合は、極力、壁の取り壊しを防ぐため、増築を別棟にし、廊下部分がつ

ながっている。窓からのぞくと、別棟になっていることがわかるのだが、それに気づかなければ、増築したとは思えないほどの一体感だ。

また、増築を機に、既存の部分にも手を加えた。以前のスタッフルームをカウンセリングルームにし、壁側には曇りガラス仕様の消耗品棚が備え付けられた。とくに変わったのが、歯科技工室だ。

長谷川院長は、以前から歯型の収納が気になっていた。歯型は重ねたりすることができないだけに、オープン棚や机の上に置くことが多い。しかし、それでは衛生面に問題があり、室内も雑然としてしまう。

そこで、歯型の高さに合わせた引き出しのあるキャビネットをオーダーメイドで製作することにした。



増設したユニットの1台



増設した個室前の中待合室



増設したもう1台のユニット



カウンセリングルーム。奥の棚が消耗品棚

前回の取材でも、各個室に治療器具のサイズに合わせた機能的なキャビネットが備えられていることを紹介したが、準備室・歯科技工室のキャビネットは、その歯型版だ。「歯型用の引き出しは6列あり、一番、受付に近い引き出しには、外部の歯科技工士さんをお願いする歯型など、すぐに出し入れが必要な歯型を収納しています。奥の部屋に近い引き出しは、治療が終わった患者さんの歯型の保管用です。カルテの末尾番号に合わせて引き出しに収納しているので、患者さんが再診でいらっしゃったときにも、すぐに取り出せます」

増築部分で長谷川院長らしいこだわりを感じるの、メンテナンス用ユニットがある2つの個室前に空間を設け、大きなテーブルとハイチェアを置いたことだ。歯科医院の中とは思えないほど、しゃれたスペースになっている。

「患者さんが一息ついたり、スタッフがパソコンを使うときに利用できるように作ったスペースです。実際には患者さんをお待たせすることはありませんし、スタッフもスタッフルームで作業するので、あまり使われていないんですけど」と笑う。

しかし、患者からは、このスペースがあるおかげで、治療が終わり、予防に移行することができたという特別感があると好評だそう。

## 増築を機にスタッフの働く意欲も高まる

ユニットが増えたことで、はせがわ歯科医院の予防は、



開業時からあるメンテナンス用ユニット



開業時からある治療用ユニット

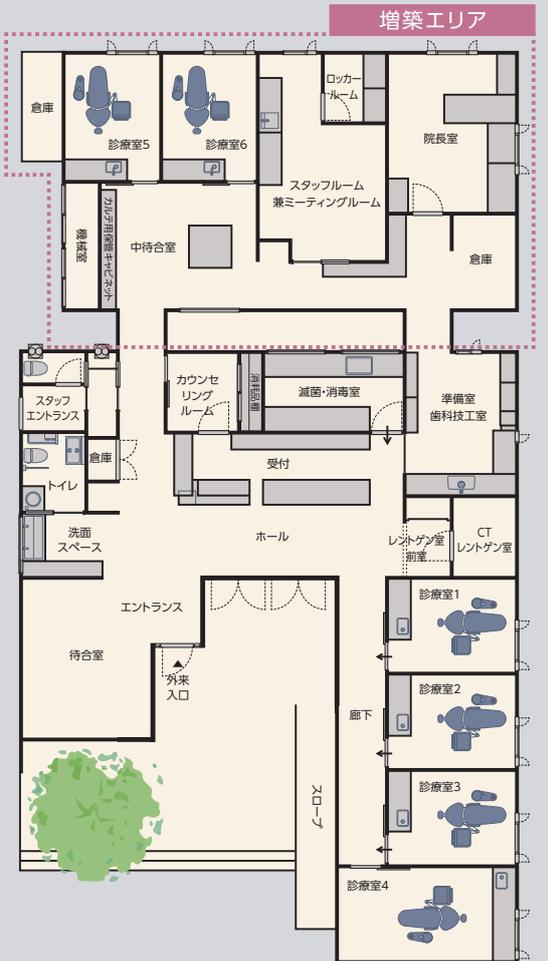


口腔内スキャナーを導入し、デジタル印象などに活用している



歯科用CT

## はせがわ歯科医院 院内MAP



さらに充実するようになった。開業時から力を入れてきたが、長谷川院長には気になることがあった。治療を終えて、予防に移行していても、ふたたび治療が必要になる患者が出てきてしまうのだ。

「予防は歯科医院で定期的にPMTCを受けるだけでは、十分ではありません。正しい自宅ケアを続けてこそ、歯を守る予防につながります。その啓発が足りないと感じ、患者さんに自宅ケアの大切さを伝える時間をしっかり持つようにしました」

歯科衛生士からの要望もあり、30分だったメンテナンスの時間を1時間に延ばした。前半はPMTCを行い、後半は歯磨きの指導などを行う。時間の余裕ができたことで、口腔内の写真を時系列で比較したり、染め出しによるプラークコントロールの結果を見せたりしながら、じっくりと説明できるようになった。

現在、はせがわ歯科医院には、常勤の歯科衛生士が6名、

非常勤が2名いる。常勤は新卒1年目から6年目の若手が多く、非常勤は経験豊富なベテランだ。

「メンテナンスの時間が長くなったことで、スタッフの意識も変化しました。学んできたことを活かせる環境が整ったと、よりやりがいを感じているようです。勉強にも熱が入るようにもなりました。スタッフによって経験に幅があるので、どんな内容の外部セミナーに参加するかは、それぞれの希望に任せています。そして、セミナーから帰ってきたら、レポートを書いてもらい、院内で共有するようにしています」

月1回の症例検討会も新たに取り組み始めた。毎月、1人がレポートをまとめ、全員の前で発表する。仕事をしながらレポートをまとめるのは大変だが、スタッフたちは「やってよかった」と言ってくれるそうだ。

長谷川院長は、「今後の課題は、うちの歯科医院ならではの教育システムを作り上げていくこと」と話す。診療を続けながら、レベルアップを目指すことになるため、外部から講



準備室・歯科技工室に新設した歯型用キャビネット



歯型に合わせて引き出しのサイズを設計



スタッフルーム兼ミーティングルーム、奥にはロッカールームがある



### エアフローハンディ3.0

長谷川院長が「メンテナンスに導入して、とても役立っている」と話したのが、この「エアフローハンディ3.0」。縁上の歯面清掃や歯周ポケット内のバイオフィルムの除去も可能な歯面清掃用器具だ。より精密なクリーニングが可能になったという。

師を招く形がよいのか、まとまった人数で外部の専門教育コースを受けたほうがよいのか、考えているところだという。「診療面でも経営面でも、スタッフの成長は、とても重要です。技術や知識はもちろんですが、働く環境の整備も成長を左右します。今回の増設でハード面は整えましたが、ソフト面も今後、彼女たちのライフステージに合わせて変化させていく必要があると思っています」

今、はせがわ歯科医院は、すでに通院している患者の紹介がなければ新患を受け入れられないほど、予約枠が埋まっている。悩むところではあるが、現時点でこれ以上の拡大を長谷川院長は望んでいない。患者一人ひとりと向き合い、生涯にわたって歯を守るという開業からの方針を守るには、今の規模が適切と考えているからだ。「新患をなかなか受け入れられない状態にあることは、患者さんには本当に申し訳なく思っています。開業から7年

経っても、日々、悩み、考えさせられることは、多いです。そんな私を支えてくれる妻やスタッフの存在は大きいですし、これからもチームワークで、さまざまな課題を乗り越えていきたいです」



長谷川幸生院長(後列左側)と奥様(後列左から2番目)、スタッフのみなさん

## PROFILE

### 長谷川 幸生 先生

●2004年 日本大学歯学部卒業。横浜市立大学医学部口腔外科 ●2006年 横浜市立大学附属市民総合医療センター 歯科・口腔外科、横浜市立脳血管医療センター 歯科 ●2007年 済生会横浜市南部病院 歯科・口腔外科 ●2010年 横浜市大型医療法人勤務 ●2013年 同歯科医院副院長 ●2017年 はせがわ歯科医院開業 ●2024年 はせがわ歯科医院を増築 ●日本臨床歯科学会(東京SJCD) ●日本補綴歯科学会 ●日本顕微鏡歯科学会

はせがわ歯科医院

静岡県富士市岩本132-15 TEL:0545-65-6600 HP:http://dent-hasegawa.com/

# 歯内療法専門の歯科医院を 一般歯科を中心とする 本院と協力して開業

東京都文京区にある「本郷瀧田歯科医院」は、  
歯内療法の専門医院として、2022年に開業した。  
開業の経緯や一般歯科中心の本院との連携について伺った。

医療法人社団 BTDC  
本郷瀧田歯科医院 院長 小林 寛 先生



歯内療法に欠かせないマイクロスコープ



ユニットは2台設置



木目基調のシンプルな待合室



通路の奥に診察個室が2つ並び



レントゲン室

## 根管治療の患者増に対応し、 専門医院を開業

「本郷瀧田歯科医院」は、「C&C」49号にご登場いただいた、瀧田稔弥院長の「文京瀧田歯科医院」の分院になる。勤務医の小林寛先生が院長に就任した。

「本院に勤務していたときから、紹介される根管治療の数が年々増えてきていた背景もあり、別の場所に専門のユニットを作りたいという瀧田先生のプランにすぐに同意しました」

患者は、他院からの紹介や小林院長が大学病院などで担当していた患者からの紹介も多い。都心部の歯科医院だけでなく埼玉県や、千葉県、神奈川県から紹介された患者も来院している。

2つの歯科医院は、徒歩3分ほどという近さ。予約は、文京瀧田歯科医院が窓口になり、一本化して管理している。

「予約のない時間帯には文京瀧田歯科医院で根管治療を含め、一般歯科治療全般に対応しています。本院、分院のすべての症例において、常々、他の先生を含め、症例検討を行い、治療にあたっています」

小林院長が歯内療法に関心を持ったのは、大学1年生の期末試験の最中、急性化膿性根尖性歯周炎になったことがきっかけだった。部活動中に下顎大臼歯が歯冠破折したが、試験の忙しさから、放置してしまい夜も眠れないほどの激痛に襲われた。痛

みが治るのを待っていたが、一向に痛みが引かない。

「慌てて大学病院に在籍していた部活動のOBの先生に診てもらったところ、一度の治療で劇的に痛みが治まったのです。その体験が忘れられず、大学院の歯内療法科に進みました」

そして大学院時代、非常勤講師だった瀧田院長に会う。小林院長は、瀧田院長の真摯に治療に向き合う姿勢と技術に深い感銘を受けた。

「以来、症例や将来のことをよく相談するようになりました。その後、勤務医のお誘いをいただいたのです」

小林院長は瀧田院長にとっても頼れる存在だ。お互いの症例を話し合うのは、日々のルーティーンになっている。

「ここを作るときも、デザインや機能を含め、ほとんどの部分を私に任せてくれました。歯内療法専門なので、シンプルな機能性を重視しました。清潔感があり、温かみも感じる院内になったと思います」

小林院長は、言葉数は少ないものの、誠実な受け答えから、真面目な人柄が感じられる。だからこそ、瀧田院長も新しい歯科医院を任せることに決めたのだろう。瀧田院長にも、専門の歯科医院を作った理由を伺った。

「都心の歯科医院なので、置けるユニット数が限られてきます。根管治療の患者さんが増え、文京瀧田歯科医院では対応しきれなくなってきていました。そこで、本郷瀧田歯科医院を作ることにしたのです」

お二人は、本郷瀧田歯科医院を専門医が集う、歯内療法の勉強の場にする構想も抱いている。そうした新しい取り組みにこれからも二人三脚で取り組む予定だ。

### PROFILE

#### 小林 寛 先生

- 2011年 日本大学歯学部卒業。同大付属歯科病院 臨床研修医
- 2012年 日本大学大学院歯学研究所歯内療法科
- 2016年 東京都神津島村歯科診療室勤務、日本大学歯学部付属歯科病院 歯内療法科 専修医
- 2020年 文京瀧田歯科医院勤務
- 2022年 本郷瀧田歯科医院開業
- 日本歯内療法学会専門医
- 日本歯科保存会認定医
- 歯科医師臨床研修指導医
- 日本大学歯学部歯内療法科 兼任講師

医療法人社団 BTDC  
本郷瀧田歯科医院

東京都文京区本郷3丁目14-16 美工本郷第2ビル2階  
TEL:03-5615-8424 (文京瀧田歯科医院) HP: <https://www.hongotakita-endodontics.com/>

# 歯の長期保存を目指す根管治療

医療法人社団 BTDC 本郷瀧田歯科医院 院長 小林 寛 先生



## 症例 1

### 頬側および口蓋側に瘻孔を認める根尖性歯周炎に対してレーザーを併用して根管治療を行った症例

主訴	上の歯の外側と内側の歯茎が腫れている
性別/年齢	男性 / 初診時:34歳 現在:37歳
現病歴	上顎左側大白歯部の腫脹を自覚され、紹介医を受診し、当院での治療を勧められ、紹介受診。
診断	#27
歯髓の診断	既根管治療歯
根尖周囲組織の診断	症状の無い根尖性歯周炎

#### 治療の経過

頬側および口蓋側歯肉に瘻孔が存在し( 図1 )、CBCTにて根尖部の大きな骨欠損が観察された( 図2 図3 )。初回診察時はMB、DBおよびP根の拡大を行い、次回瘻孔の縮小傾向の有無を確認することとした。治療2回目、根尖からの排膿は消失し瘻孔は縮小したが残存しており、各根の形成を行った。治療3回目、瘻孔は残存しており頬側および口蓋側の瘻孔からNd:YAGレーザーを照射した。治療4回目、瘻孔は消失し根管充填を行いレジンコアにて支台築造実施( 図4 )。治療1年後、病変は縮小し経過良好である( 図5 )。



図1 瘻孔からGP挿入

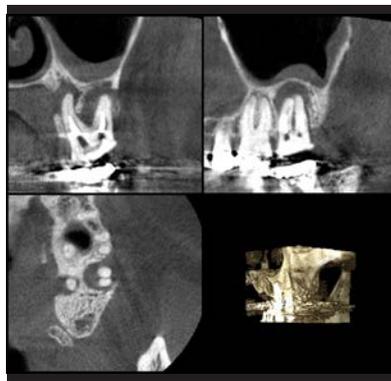


図2 MB根CBCT

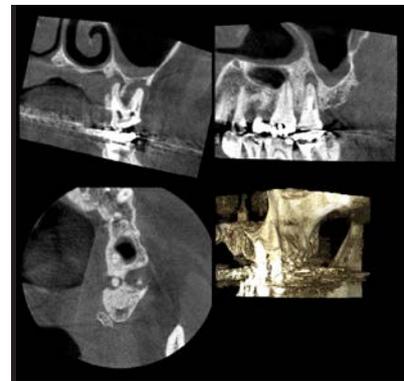


図3 P根CBCT



図4 根管充填



図5 経過1年



診療室とNd:YAGレーザー

根管治療を行う目的は、患者さん自身の歯を保存し、かつ長期において口腔内で機能することと考える。さまざまな原因により根管治療が必要になった歯において、根管の解剖学的複雑性を始めとした理由により、難症例となる場合がある。その際には根

管治療の原理原則にのっとり、一つひとつの手技を適切に行うことが必要となる。今回は通常の根管治療にNd:YAGレーザーを併用したことにより、非外科的歯内療法による治療の一助となったと推察する2例の症例を紹介したい。

## 症例 2

### 消失しない瘻孔に対し、レーザーを併用した非外科的歯内療法にて根尖性歯周炎の治療を行った症例

主訴	下の歯の歯茎の腫れが引かない
性別／年齢	女性 / 初診時:26歳 現在:27歳
現病歴	下顎左側大白歯部の瘻孔を自覚され、紹介医を受診し、長期間根管治療を行うも、根管からの排膿が消失せず、当院での治療を勧められ紹介受診。
診断	#36
歯髓の診断	既根管治療歯
根尖周囲組織の診断	症状の無い根尖性歯周炎

#### 治療の経過

頰側に瘻孔が存在し( 図6 )、近心根管には破折ファイルを認めCBCTにて根尖部の骨欠損が観察された( 図7 図8 )。ML根の破折ファイル除去( 図9 )および各根管の拡大形成終了後に排膿は消失したが瘻孔の縮小は認められなかった。外科的歯内療法を行うことを想定しつつ瘻孔よりNd:YAGレーザーの照射を行った。1回目照射後、瘻孔は縮小し2回目照射後瘻孔は消失し根尖部をMTAにて根管充填を行った( 図10 )。その後MTAの硬化を確認しレジンコアにて支台築造実施。病変は縮小し経過良好である( 図11 )。



図6 瘻孔からGP挿入

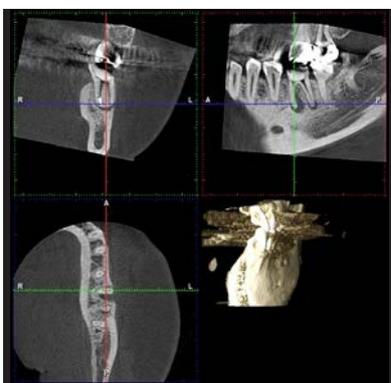


図7 近心根CBCT

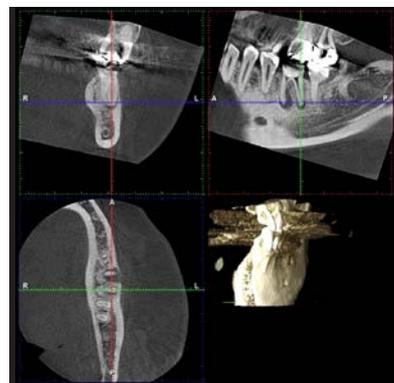


図8 遠心根CBCT



図9 破折ファイル除去後



図10 MTA根管充填



図11 支台築造後

ササキホームページでは皆様のお役に立つ情報を公開中です。

ササキ株式会社  
ホームページ  
SASAKI CO.,LTD.



下記から、アクセスください。



C&C  
ケア&コミュニケーション  
CARE & COMMUNICATION



※バックナンバー掲載中



下記から、アクセスください。



歯科医院  
新規開業・改装サポート  
SASAKI STARTUP SUPPORT



SASAKI STARTUP SUPPORT

下記から、アクセスください。



 **SASAKI**  
<https://www.sasaki-kk.co.jp>

SASAKI Care & Communication Vol.65 December 2024 お問い合わせ・ご意見:「C&C」事務局 細谷俊寛  
FAX 0120-566-052 <https://www.sasaki-kk.co.jp>

発行:ササキ株式会社 東京都文京区本郷3-26-4 ササキビル4F

●本誌に記載された個人の氏名・住所・電話番号等の個人情報の悪用を禁じます。●本誌の記事・写真・図版等を無断で転載・複製することを禁じます。